

<http://www.womensoutdoornews.com/2016/09/peek-life-vera-koo-book-writing/>
ベラが執筆している本とパーソナルライフをちょっと覗いてみましょう

数年前私はベラ・クーさんに出会ってからというもの、彼女にとっても関心を寄せています。彼女がどれだけ素晴らしい人かは言うまでもありません。彼女の最近のコラムを読み、ますますリスペクトしています。ベラ・クーが今執筆中の書籍の内容でもある彼女のパーソナルライフの一部を、コラムでシェアして下さっています。 ~MC

私が生まれた中国では、汚れた洗濯物を外に飛ばさないように、つまり、悪いことが起こったとしても外見を装うように教えられています。自分が苦しんでいることを晒してはいけないのです。中国文化では、自分の抱える問題は他人に話すべきではないとされているのです。



私は、その文化的な教えに逆らってみることにしました。私は洗濯物を吹き飛ばすかのごとく、自分の人生のハイライトとなった出来事を本に書こうと思います。私は原稿を数年にわたってずっと書きためていたのですが、完成に近づいてきました。

物書きではないのですが、語り継がれるに値するエピソードを持っていると、身近な人々から20年に渡りずっと言われ続けていました。

20年前に悲惨な体験をしてから、自分の殻に閉じこもり2年間セラピーに通いました。その間セラピストが私に執筆するように勧めてきました。セラピストは、私は人

にシェアすることが出来る、人生の教訓につながる体験をしているのだからと。本を書くように勧めて来た人は他にもいました。

当時、本を書くことに魅力を感じませんでした。私はアーティスト、ビジネス・ウーマン、中国系アメリカ人です。私は母親であり祖母でもあります。これらすべてを並べたところで、私は物書きではないのです。執筆したことなど経験もなう、どれくらい書けるのか技術的にも謎でした。私が本を書くなどという事は思いもつきませんでした。



それでも私には語るべき話がある。そのうち本を書いて自分のエピソードを伝えることを試してみようかと、決断しました。

私には新しいスキルを取得するときの傾向があります。何かに夢中になるのに5年、得意なものとするのに10年、エキスパートになるのに20年かかります。これは自分の5-10-20ルールと考えています。

それを踏まえると驚くことでもないのですが、とにかく何年もかけて書き続けています。

私はこの本を2003年に書き始めました。楽しいと思えるプロジェクトではなかったし、本はまだ出版されませんでした。私の射撃は下降気味だったので執筆活動は棚上げにしました。2013年まで本のプロジェクトは休眠状態となりました。自分には本を書くために勉強をした経験がなかったので、二人の著者と一緒に仕事をしました。

時が経ち70歳近くになるにつれ、私は射撃のキャリアを終えた時、何をするのだろうかと考えたものです。私は熱中するタイプで自分に一生懸命やるのだと言い聞かせるタイプなのです。家でじっとしているなんて考えられません。私は、達成には多大な努力を必要とすることに惹きつけられます。私は射撃人生からリタイアしたわけではなく、この本を書いている事でとても忙しくなりました。執筆が完了したら、プロモーション活動で本について語るなど忙しいことには変わらないでしょう。この事は私のマインドをシャープに保ち、体を動かしていくことにつながります。

活発に活動をし続けるためのいいプロジェクトではありますが、それが理由で本を書いているわけではありません。自分には伝える価値のあるストーリーがあり、それが他の人の役に立てばいいと思ったからです。

私の本は、自分がシューターであることにも触れます。確かに射撃は25年間続けているので、自分の人生の中でも大部分を占めています。しかし射撃のキャリアの焼き直しでなく、人生で試練に遭遇した時、どのように向き合い克服していくかのストーリーなのです。

人生は私にたくさんのチャレンジをもたらしました。英語がさっぱり分からないまま、この国に移民としてやって来ました。夫のカルロスと私はビジネスで破産寸前まで行きましたが立て直しました。私たちは息子を失いました。20年以上前ですが個人的に根底を揺すぶられた悲劇に遭いました。私はこのことについて本で詳しく触れたいと思います。砕けた心の状態からどのように自分を建て直して行ったのかも含めて。

この本では、神の愛についても触れています。逆境に置かれて試されることがあるかもしれませんが、あなたがハンドルできる以上のことを課せられる事はありません。私が個人的な試練から回復している途中、射撃は私の逃避場所となりました。射撃は気持ちのはげ口としては大変よかったですのですが、自分を救ってはくれませんでした。神への信仰が私を救いました。

この本の執筆はかなり大変なプロジェクトで、たくさんの自己省察を行う事でもあります。2013年に執筆を再開してから、自分の癒しにもなっています。夫は、恐れる気持ちは私の心の中の重要な部分には存在しなくなったと言っています。時とともに、私の経験した悲劇は消え去っていき、今となっては私の人生の中で、ごく小さな存在となりました。



この本の読者に、生きる上で困難に直面することになっても、独りじゃないとわかってほしいです。世間には強いイメージのみ前面に出している人もいます。私たちには見えないかもしれませんが、心の中にいる悪魔と傷つきながら戦っているのです。私にはその経験があるのでわかります。外では気丈に振る舞いながら、逆境を隠しているのです。

でも私は、逆境や抱えてきた問題を話す事は恥じる事でないと学びました。私のストーリーが他の人を救いインスパイアできたらいいなと思っています。

人生は時にローラーコースターのようです。しかしあらゆる悲劇には、克服する意思があれば大きな勝利がその向こうで待っているのです。

ベラ・クーについて更なる情報は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

VeraKoo.com